



一商人

富岡貴林著

水段町中記

初編

下

No. 39
四冊
寄主
東京神田旅籠町志
拾遺

三河屋幸三郎

口 9

1516

2



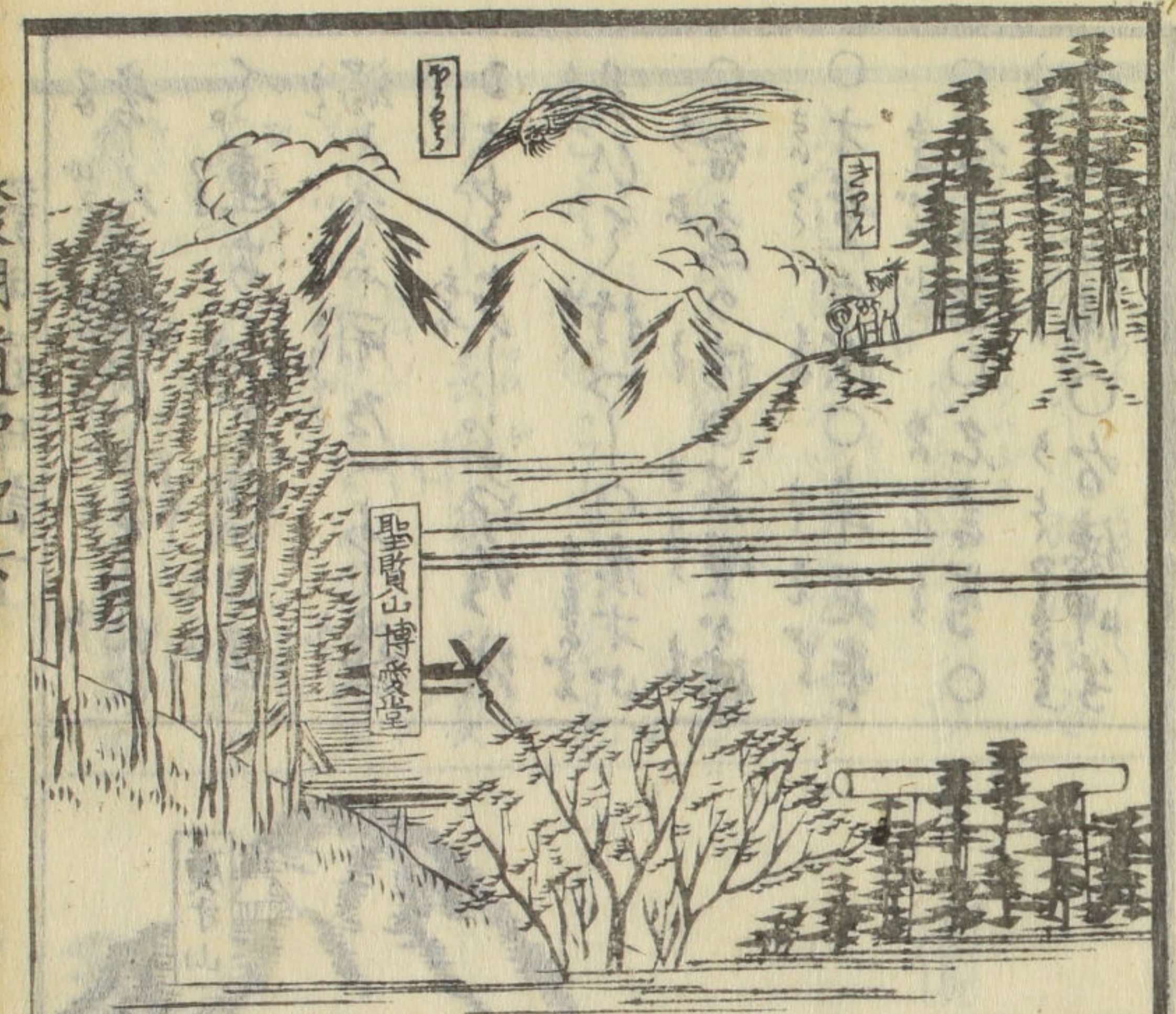
富岡貴林著

發明道中記初編下之卷

第五驛

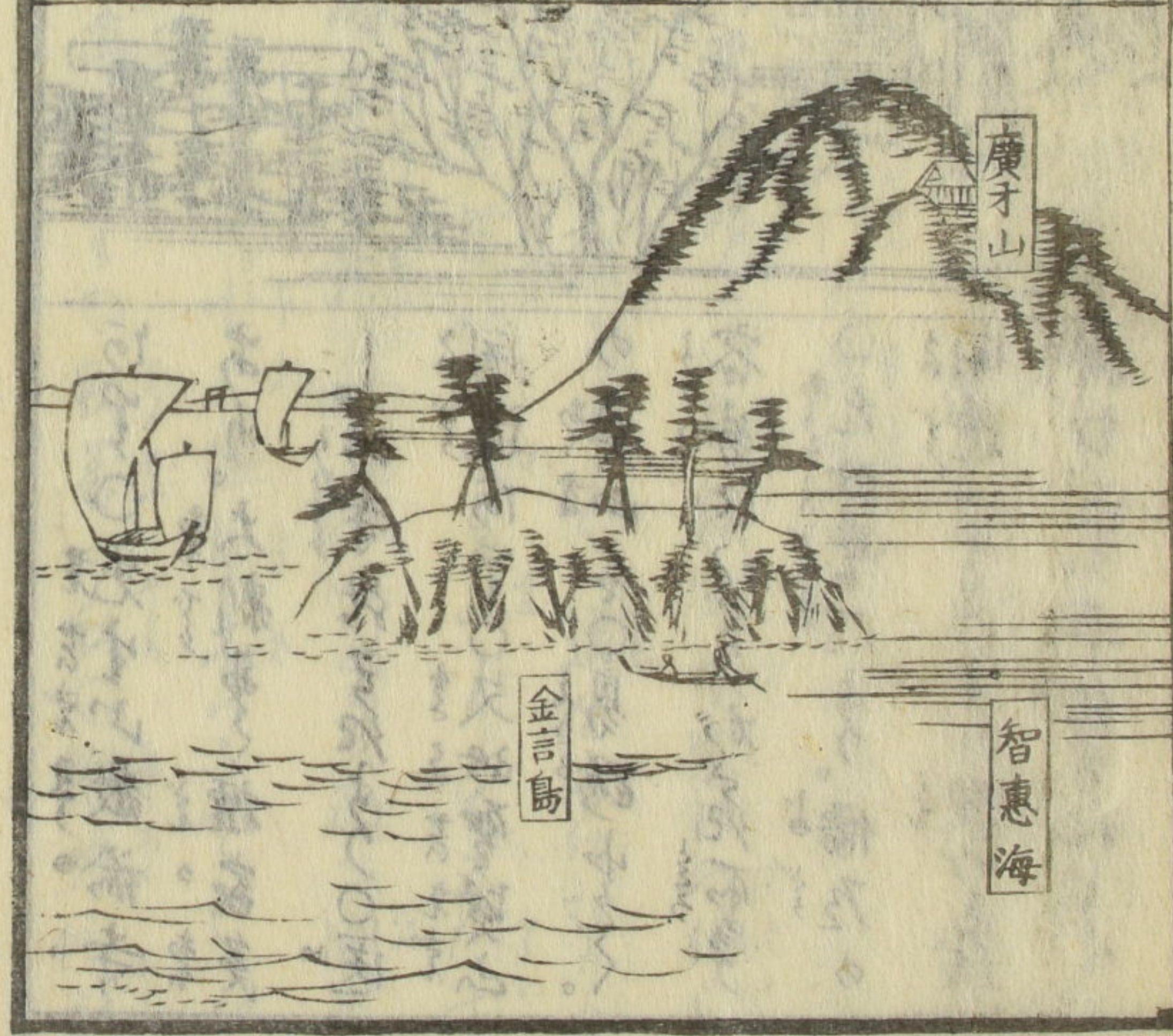
本然開道四方宿○常宿ハ。有志願内の入口なり○あるべ
石碑。高さ八尺。東西南北より開路あり。ゆゑより四方宿と
いふ○先束の方ち。神乃といふなり。此道ハ○國界山和光
本神宮へ系詣一奉る開道なり。名所古記に
多く。土地飽まゝ富饒に。萬國の最極。至双乃上國
地球の内。かくの如く目出度難有き。かぎりもなき國を
よる。河をくゞべ。寧ろ。又此道にあらむのね者なり。

○南の方ハ學門と云ふ大門あり。此より儒道中
 以ふ。此門を直う。聖人の道と云。孔子の及ぶ所
 ○聖賢山博愛堂あり。表門の莊嚴目をおどろかすなり。
 整く正く。威儀堂なり。○扁額を金堂に入徳門
 と銘せり。此門に入るものハ無欲なり。道をやむむの
 に此がむねなり。○此聖賢山徳を尊ぶ山なり。五風十
 萬の徳海あり。麒麟鳳凰舞あそぶ。ゆさゆする園也。
 君子の徳風と云ふ風あり。小人の草木いさぎなく
 吹くを以てあり。○心學亭あり。○勸善の社。○懲惡の社

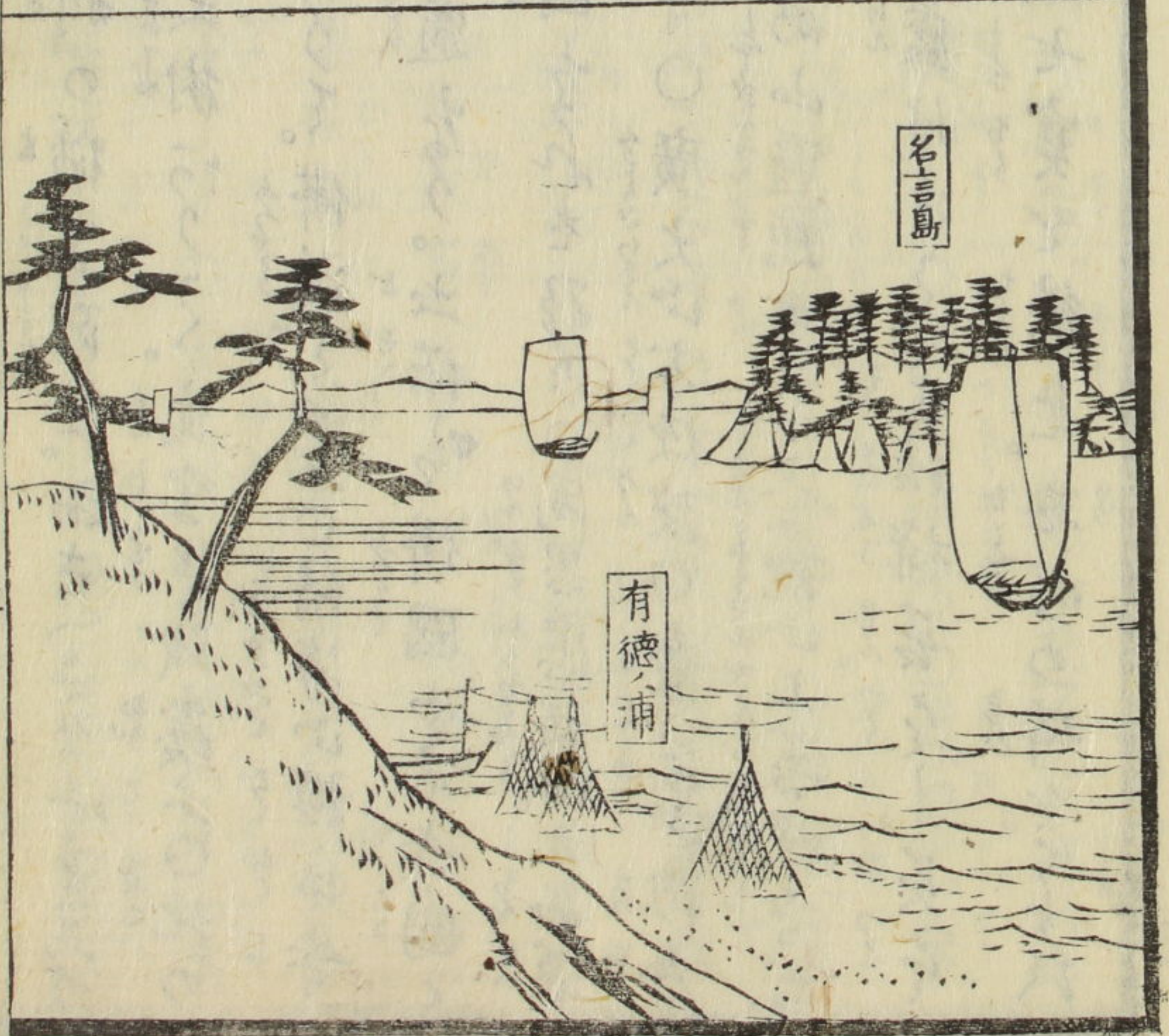


何なり。○先生山教諭寺
 あり。大刹あり。檀家多
 し。此寺はこれより。○送
 開道あり。○又此聖賢山
 の奥山なり。○易路あり。
 容易にいそがしむる
 ○凡此學門より。儒道
 開道ハもとより途づみ
 撰む。平地あれども

常人の雅所と云ふ地に
て。連あしき水に○異
端と云ふ所及一を連
るる多し。○此所
用ひて行で○廣才山
○智恵の海○名量が傍
○才覚の溪○車見堂
○金言島○名言寺○
純粋が浦○有徳岬等

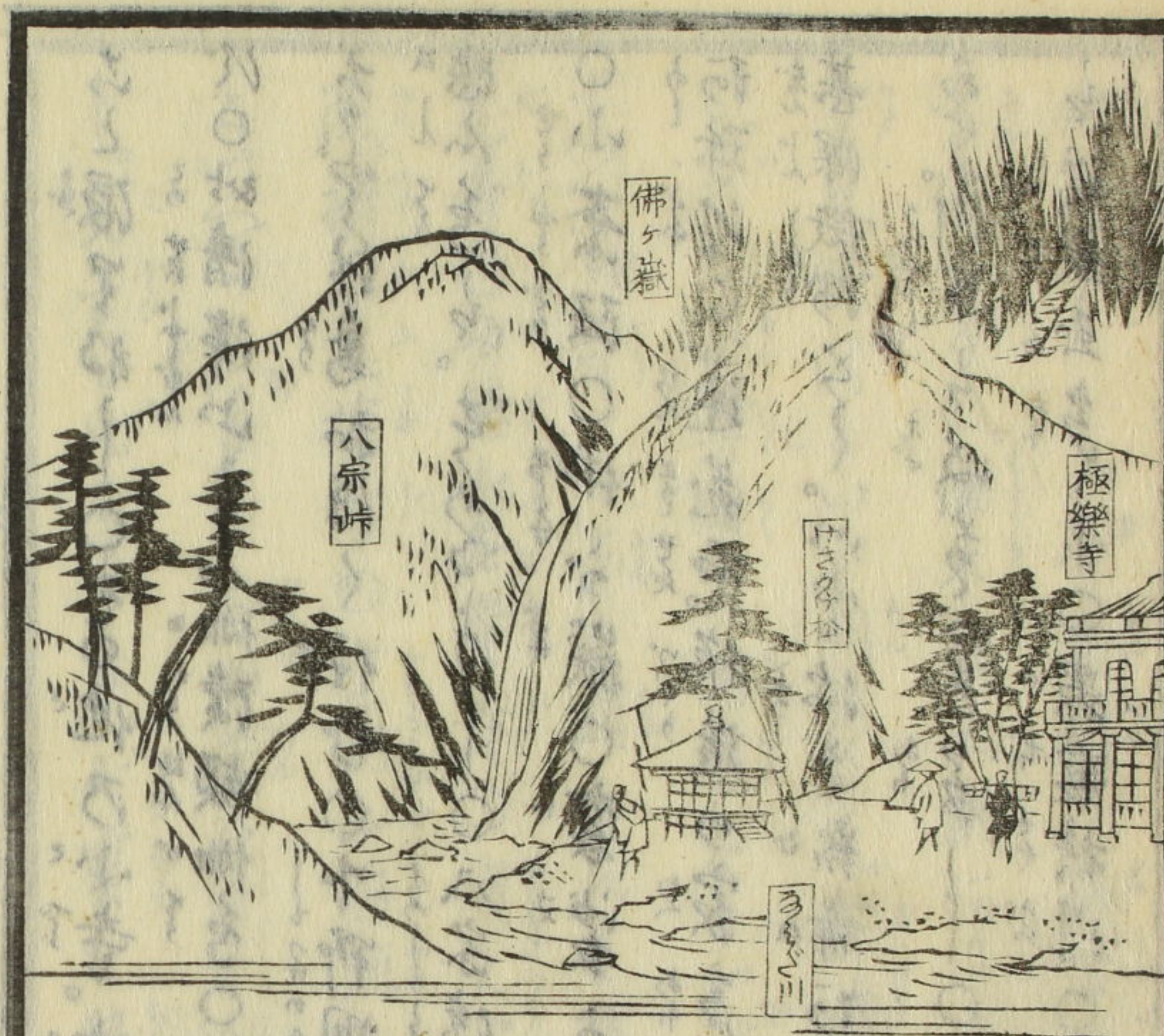


乃。名所多し。此浦も
○散の別。名物なり。ち
うと食ての味もた
ちれども。能く嚙め
さる美味くやわき
かゝ○玄甲蟹とい具
何り○文字多しあり。文字
菩薩と云ふは○お釈の
育てよく行儀菩薩の



御作り。各分別の御子殿也。おきくところの
 尊像なり。○楠木社大樹有り。文字半成。後ふ○北の
 方。佛門といふ門あり。佛道といふ○清淨山極楽寺
 と。より安樂國一の御道なり。お供に佛國なり。寺國と
 いふ。寺く多き國なり。をり。○因果應報山九龍蓮
 花寺○功德山無量寺○廣大山方便院○衆生山淨度
 院。攝取不捨寺○光明山遍照寺○三寶山三菩提寺。と
 といふ。ハ何れも大伽藍に。結集。各々。英々
 一。英々を地り。七寶を備え。無明の群を。いふ

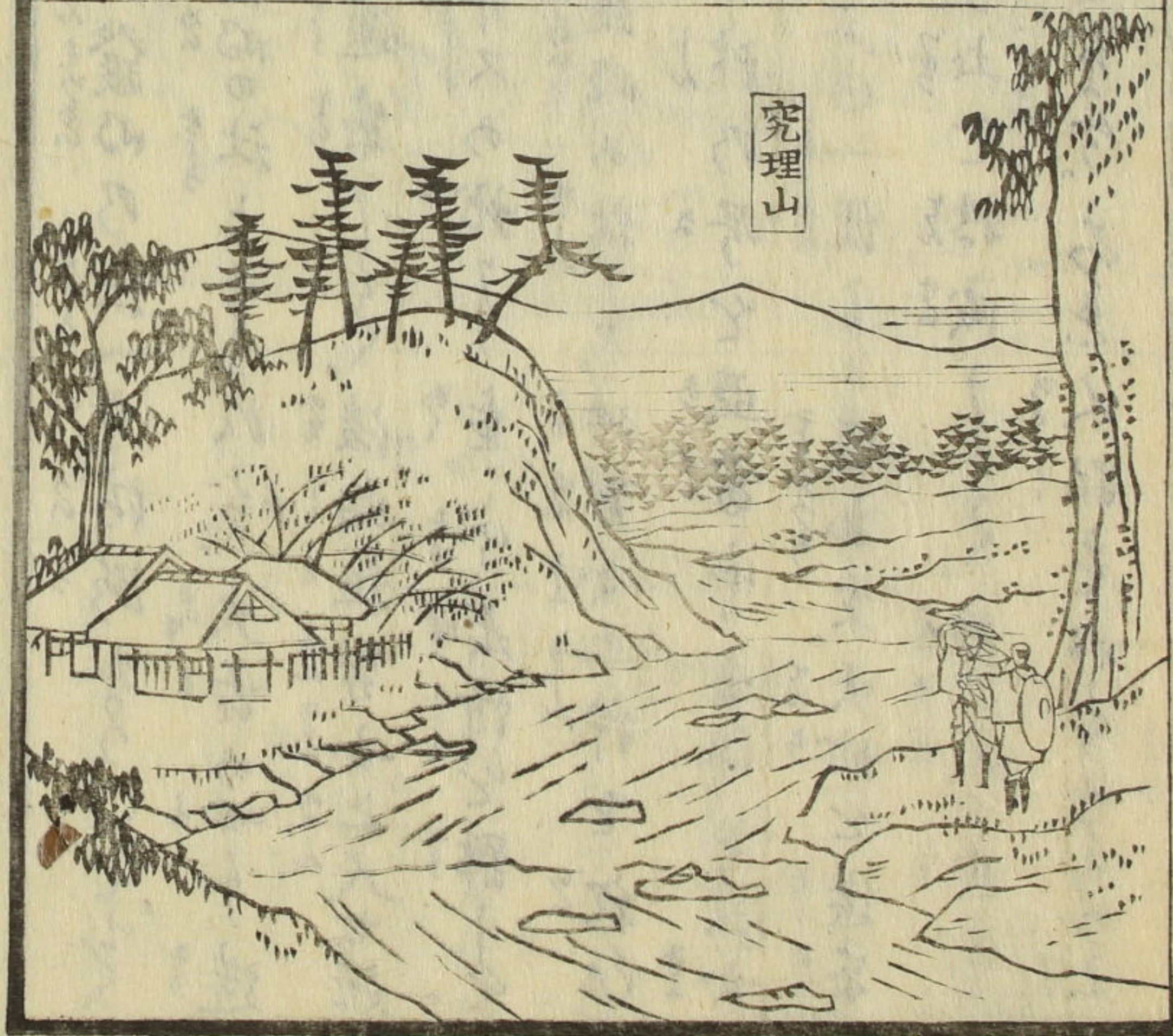
と。限り。○その他乃小寺。末寺。枝。あぐらに。蓮
 花。○清淨山。伽陵頻伽。○佛法僧。○慈恵人。と
 ち。お。お。お。○中野國日光山。佛法僧。慈
 恵人。と。と。と。○八字。○十一宗。○大乗。○
 小乗。○佛。○釈迦。○松。○紅。○樹。○南。○
 阿。○蓮。○花。○石。○作。○造。○家。○多。○説。○教。○谷。○の。○谷。
 甚深微妙。と。と。と。○念。○仏。○川。○河。○色。
 珠。○数。○玉。○多。○愚。○癡。○持。○川。○地。○獄。○谷。○飛。○海。○川。○



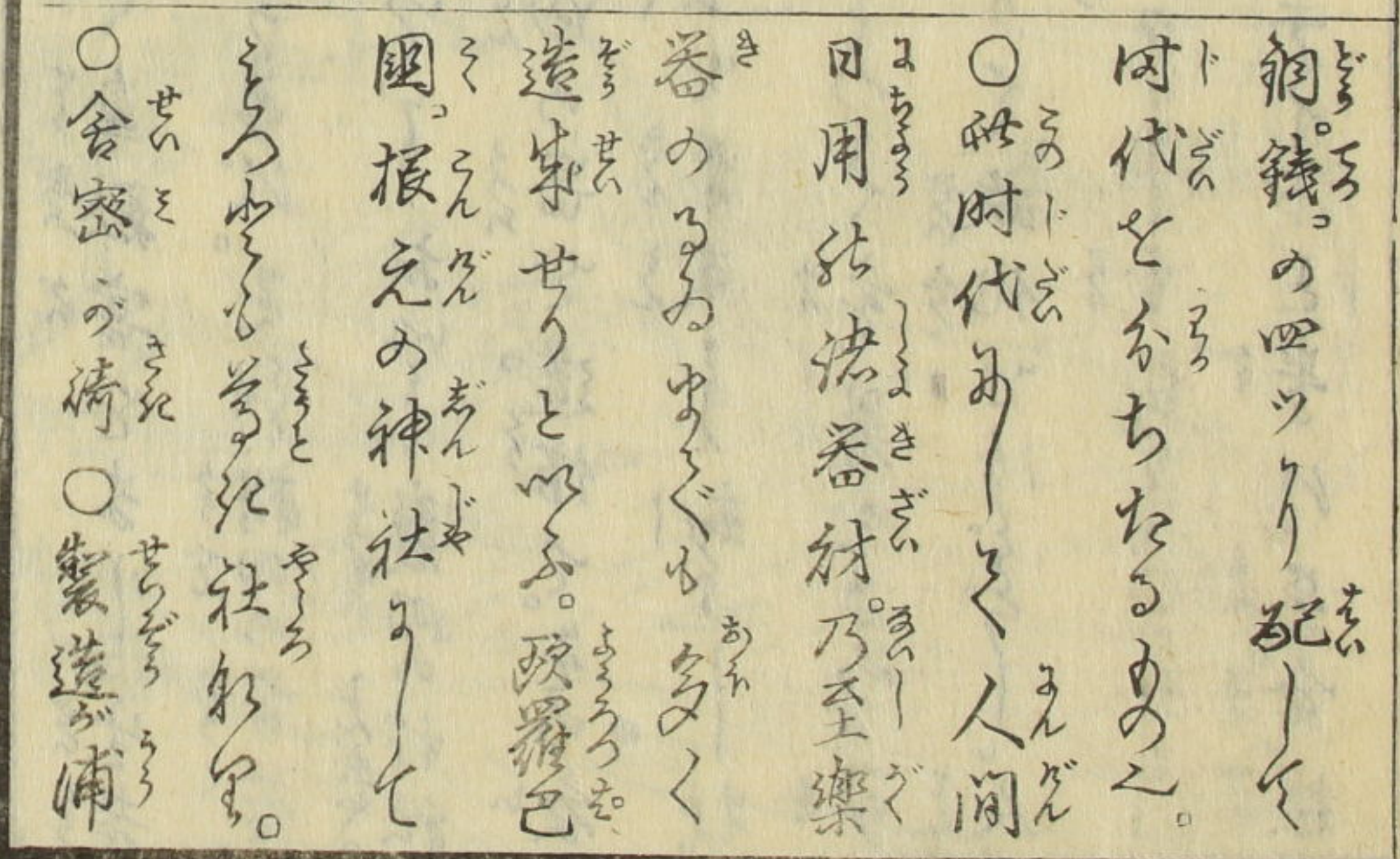
乃のづゝ水源より。あはれなるも名所
 古跡多し。やまのふもと。みちく悪徳御たり
 人跡絶たり。○あつん村。○月見村。○爺婆村
 ○有難井戸。○何某長者の屋敷。○何々仙人の
 加持水あり。○西乃

方々。○欧羅巴。○究理心。○發明の社。○の。海路なり。○そく
 大の。○欧羅巴。○究理心。○發明の社。○の。大古の。造
 物を。天地を。造。後。始祖。男女。二人。を。作
 人。と。し。ハ。ラ。デ。井。ス。の。地。り。を。所。を。辨。し。て
 究理心。と。いふ。今。は。發明の社。に。此。男女。二。神。を。祀。ひ
 たり。○の。男。神。乃。号。を。亞。當。と。いふ。そ。は。女
 神。の。号。を。○厄。穢。と。いふ。○一。統。り。造。物。主。天。地。を。造。成
 し。て。の。ち。り。二。塊。の。土。を。持。成。し。て。此。二。人。の。形。を
 造。り。萬。民。の。始。祖。と。す。此。人。を。祀。は。り。土

久。優る地をゆす
 少なり。○此土地をて
 氣候融和なり。人疾
 病なく。す。愛若く。
 天より。此色。おためり。
 水流の流を。さ。四の
 大河。中。為。さ。○東流河
 南流河。西流河。水。河
 と云ふ。○年。を。經。て。地。氣

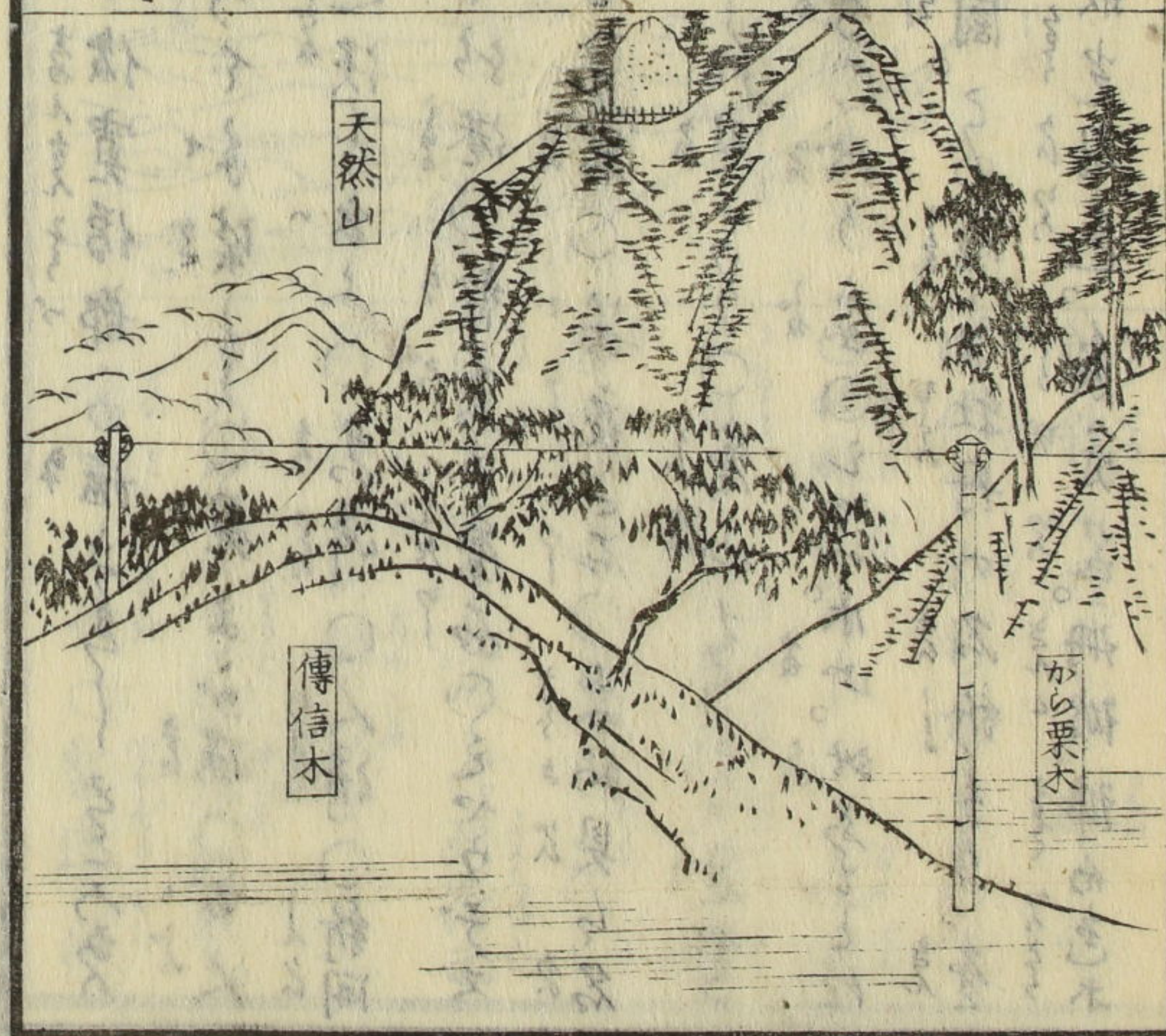


更愛し。五穀を生。ト。が。く。鳥獸害を。あ。生。老
 病。飢。寒。凍。餓。乃。く。を。免。う。ま。代。そ。耕。田。の。勞。苦。
 其。の。生。育。の。艱。辛。幾。計。あり。あ。り。お。ひ。く。發。明。の。神。社。
 度。大。の。恩。恵。を。垂。也。さ。く。耕。田。の。畠。を。造。作。す。その。夜
 食。を。當。む。ら。は。は。ト。免。う。食。を。民。り。知。り。む。
 ○ま。木。を。伐。く。處。を。造。作。す。さ。く。を。署。を。さ。く。り
 と。教。へ。た。ま。り。この。因。國。王。始。り。く。政。化。を。ほ。と。り。人
 る。あ。と。蓄。息。を。以。後。事。體。を。四。つ。り。分。ち。く。○ゴ。ウ。ト。○
 シ。ル。ハ。ル。○コ。ー。ペ。ル。○エ。イ。ゼ。レ。○の。四。テ。イ。ト。と。号。し。是。金。銀



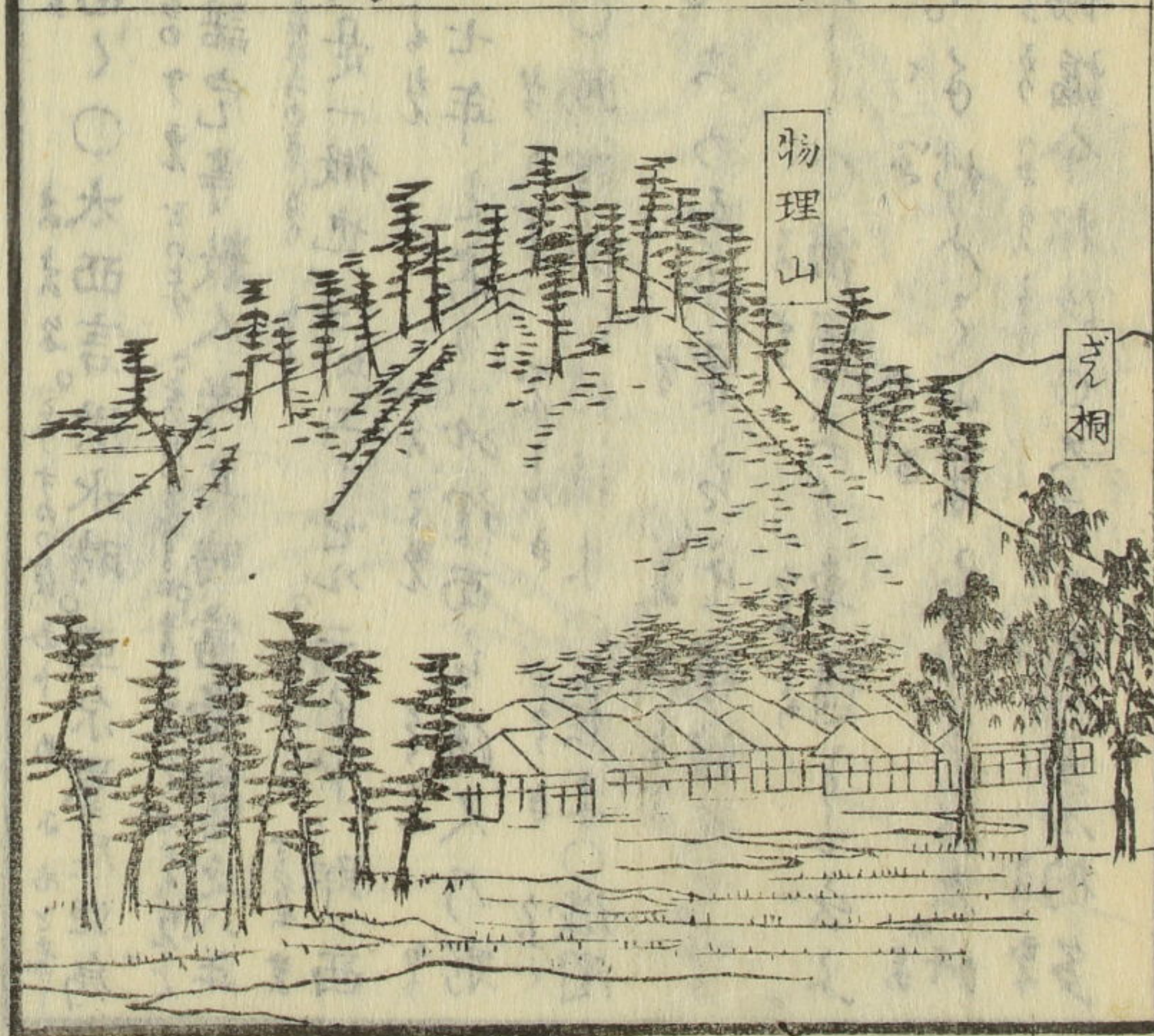
○器械が島々。むろろ。俊寛僧都の堀さきき。そころあり
 とうや。○工夾岩。むろろ。見よ。の膝。○古人
 未發の漢。むろろ。出人連漢と云ふ。○馬。○人。○新開
 開拓が漢。○開く。の港。○智恵の魔石。○之やウテス
 の祠あり。○羅外浦。○モヘル岩。○吳良之石。○更紗貝。名
 物あり。むろろ。貝あり。○倉山。むろろ。兄。ゆ
 〇乳立島。○五本。の岩。○代り。島。○シヤツ。木。山。此。あ。と。に
 當石多し。○洋服の圖。この所。牡丹の名。新あり。色
 銀洞。鉄色。青貝。又。軟光。貝色。象。象牙。色。冊。棚。障。白。色。木

乃數種あり。○天然山。
 この山をいふ。世界中。
 第一あり。往古聖人。
 諸君と云ふ。有徳乃人。
 天の法あり。人。
 洪水をいふ。人。
 常河の遠近。尚存せ。
 石と云ふ。○石碑あり。石。
 文に曰く。○天地開時。初。

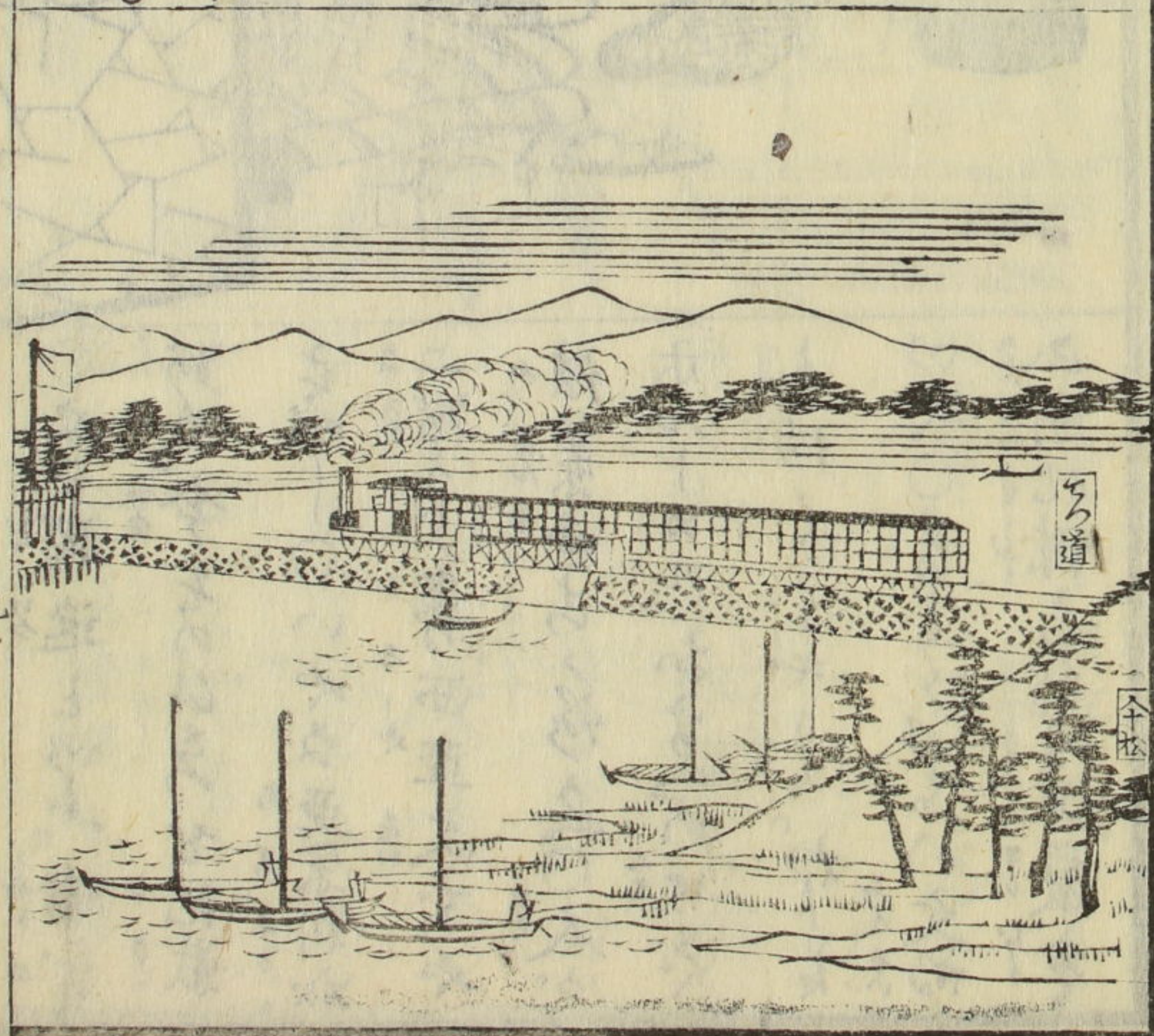


有^レ水荒。云云。○往西に四く。○太西言。洪水時。亞爾墨尼亞爲甚。猛雨四旬地面全没止遺諾冗等數人考其時當帝嚳之八年
壬辰去中國洪水在堯時是一微也。云云。工イセルテイト。即西
洋開基第一千六百五十七年とあり。此種面は後人乃彫
刻したるものなり。○物理山○傳伝木○慈木○鐵関
木。等能立本多し。六の所より粟より其線鉄をさす
なるやあたむるが如し。○鐵道あり車道とも云ふ
むかしし多人敷みり。手携ふ心来たるもあゆ急。
名あり少々一里。○幅幅今松疎。○ステツ木。○せん桐多

一〇九番國の人々
 是も長々たる。衆多
 利便に——英邁豪
 傑を多く産ず。今尚
 國の方を——と挙ぐ
 ありと。ナトタアレル。娼
 妓と。スハルトバチトル。老婦
 と。バアサレ。笑婦と。ムスメ
 ヨロシイ。アリマス。笑人と



ベツヒレトイチ○ニ味線セ
チレトレシヤレ○琴セ。コロシ
シヤレ○笛セ。タラリ○おれ
紙セ。カクトヘル。○卑附本
セ。コスルトモ―エル○大セ。ワ
ントホユル○猫セ。ニヤアトナク
○飯セ。サレドクフ○煙州
セ。スウトヘル○枚屁セ。ブイト
デル。あど拳ろーぐし。

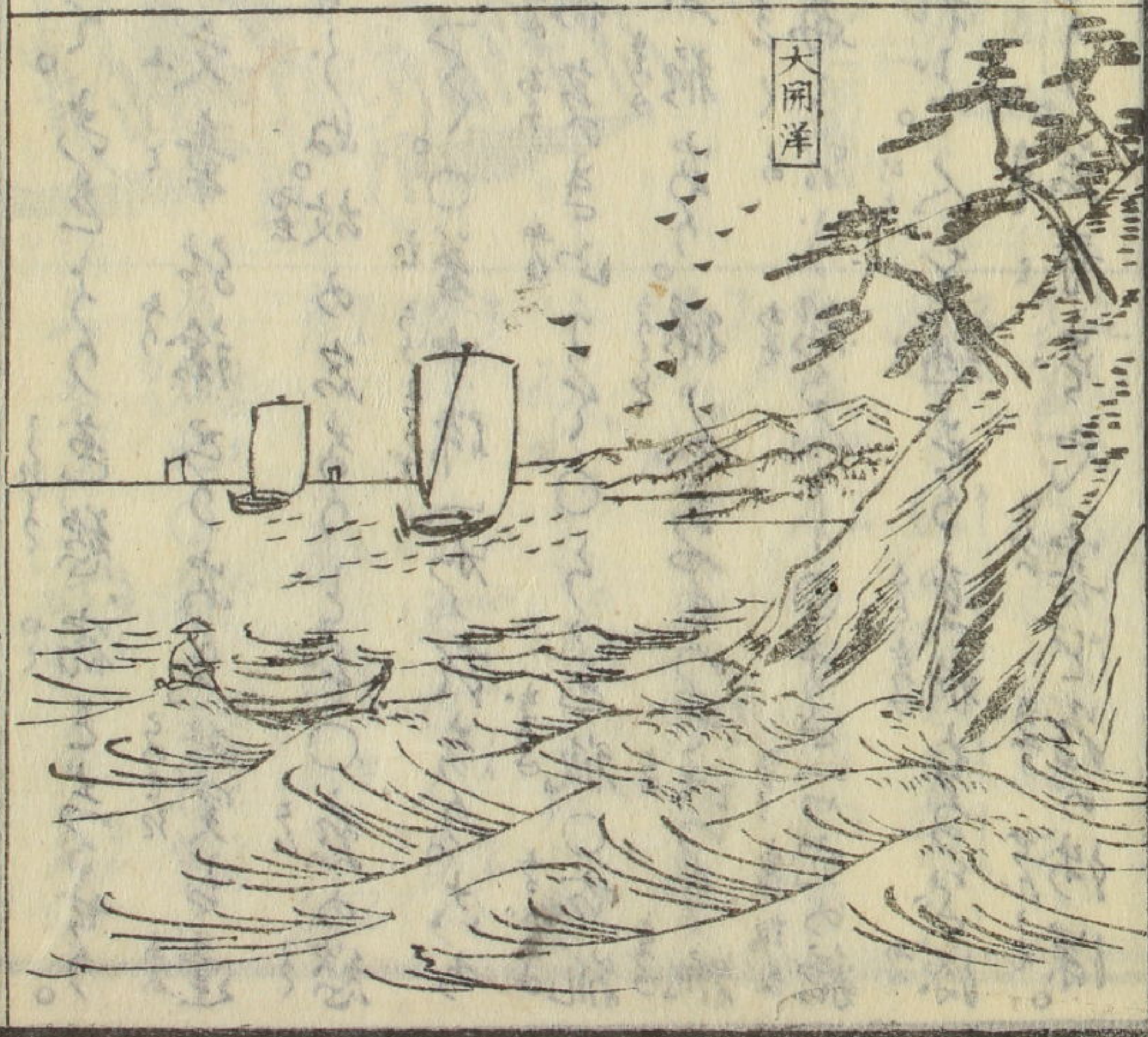


○あゝ獨逸といふ。唱ふ
あり。今そのひふを記載
する。○いゝる。西宋村水
二階うゝ魯西亜といふ
ホルトガル。おまゝの口を
うめくイギリス。わが
いふ。○あゝといふ。○文昭
山用化城あり。西宋村水

ある事。鉄壁の如く
○墨なる石門高く
しそ。山のとうとうむ。
廣にたれ水渾。ふかく
あまう海と安んじ竹を
○又此山四圍のものがめに
家て物ひとろそ七。是は
ぞと云ふところあり。前
西に陰海隠照もよく

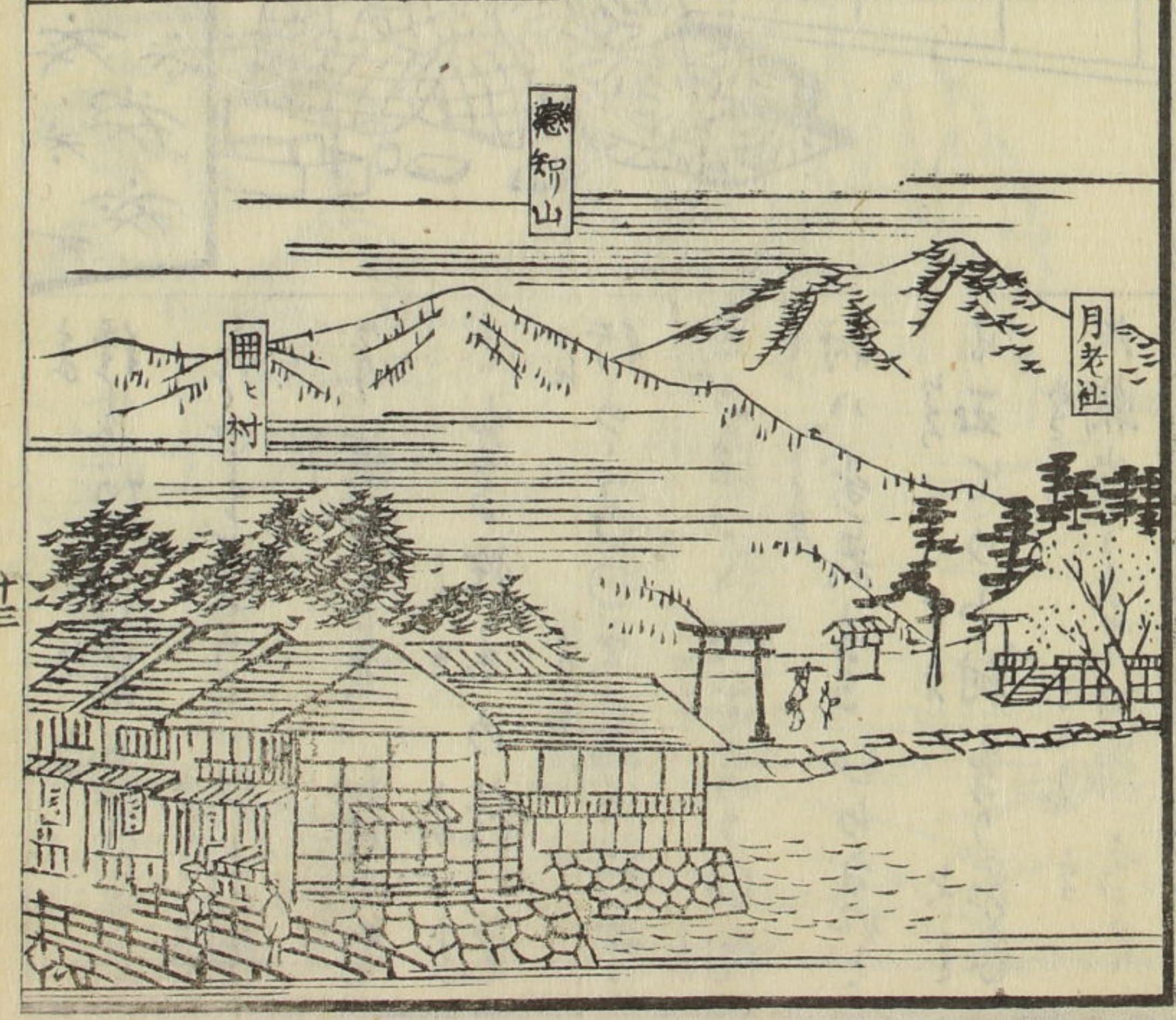
岸より波のきざしを石の巖を何と。幾百艘の海士小
舟に。侯の志州のよみ活くやと。地球中にありと
ある。國々交易彼ら。費をたぐく。連列ね教衛
守護の後所。ハ大膽を。立演風に翻が。往
來の往來。迂買の。人案集る。直下せが青
海山の上。孤峯天と。ゆるく。直下せが青
海山と穿ち。海。以後。の野禽さほぐ。光
歎。此所より。彼所より。銭色。朝たりハ

海を。草葉の。を。新樹乃
を。世界。て。此き
第六驛
惡徒街道色歎篇〇入



一とあり○愚の奴村にり。あ村より道案内をい入
 ぬし。我城にくもるふ奴も。この村より出るなり。
 ○名物焼餅。此餅ハ竹の形をきつて、ゆりて一定あり
 を○愚乃周知。各本蔵とて蔵す。ゆく先んて○世俗
 り。むきにちるゆく云る候も。あの本の森よりいひ
 物しと有り○可也。橋へ阿房々々と鳴○又比翼を
 何と云ふしとく。と鳴るなり。此地より多く捕む鳥
 形。○狀狂の山大あり。園道中を赤色に映く鳴は
 の色なり。身上寂滅あり。只吠る色も。百年月とあり

一とあり○月老社。あ社に
 此云國史社の末社に
 神あり○此よりて種
 一の紙多く鬻く家あり。
 ○急も女子の涙のさ
 ○なんぢうほう一ハ柿の
 種○さきも女子とあり
 のさや。児のさ格乃





種も何り○家藏にあり
 たりともあり○朽色振
 り振をこのまゝ。物つとも
 とある浮木の種○色
 行つとも○欠落の種も
 己さ満くの果あり○因
 村ハ。歩無あるむらされど
 玉ての小村あり。家毎
 に朝露しく。日輪高く

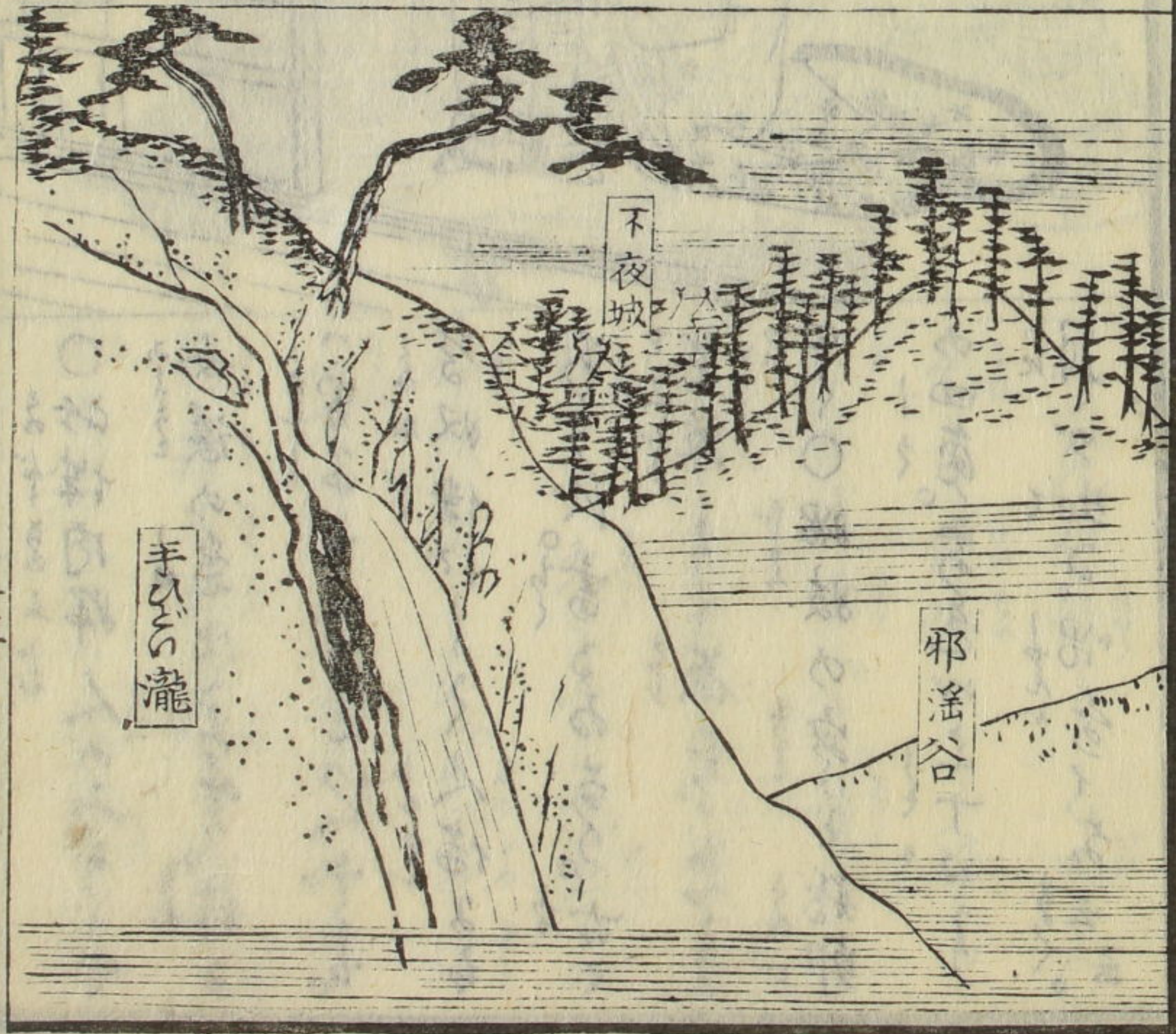
昇りてちのねを起べと
 云ふ○おやく如何座敷の
 才より。年貢をおくも
 何りともあり○お知り山○
 粹の海○通の浦に之
 ○振切板ハ。笑え半之行
 こゝともあり。意御
 道を行く人ハ。妙道に星
 速り通過するともあり

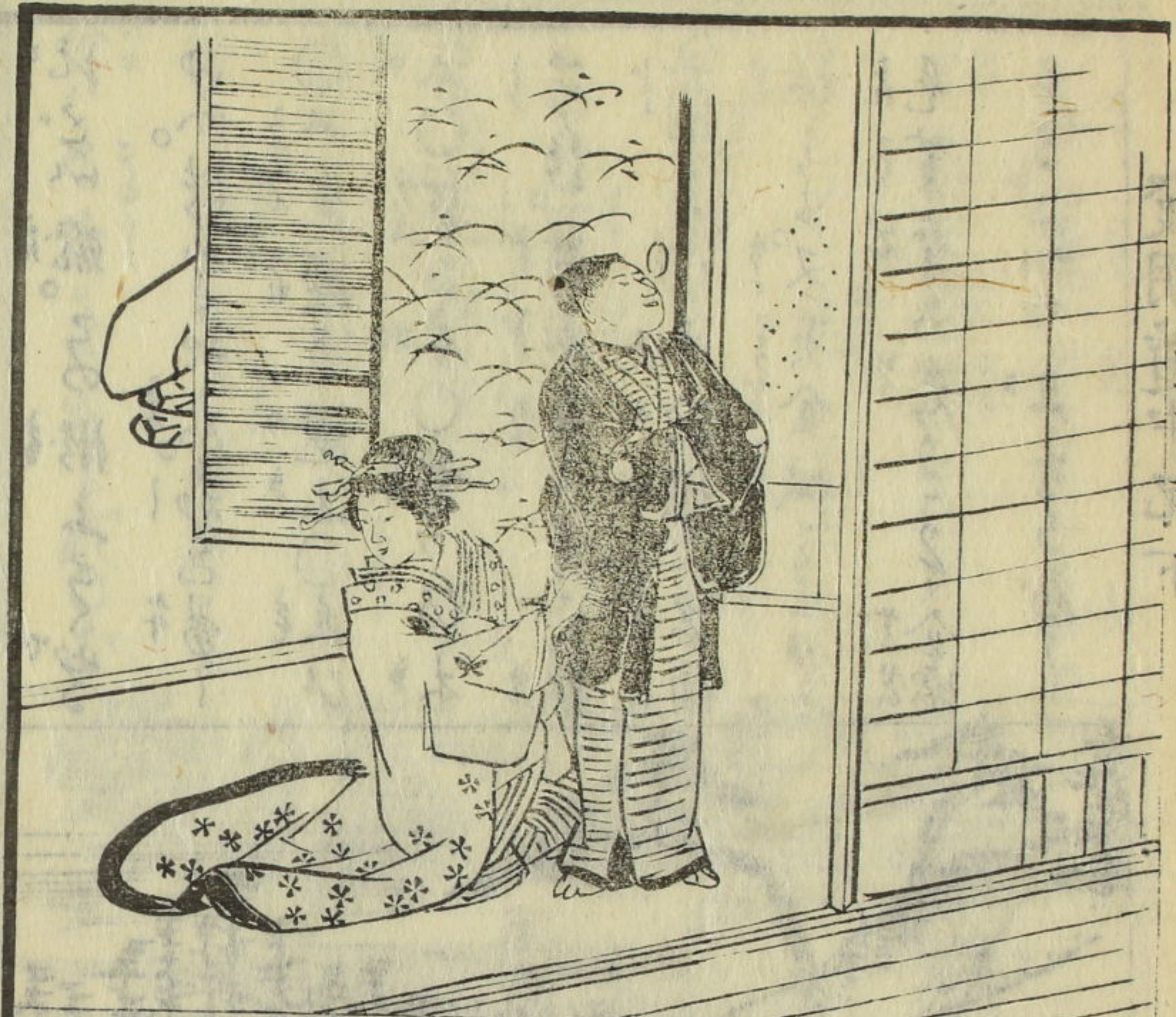


○縁の橋。此よりとて、
 金吾を資負てわたり。
 川よりく、危く見ゆ。ひと
 つ踏まふも。橋倒合谷
 とよきと落る。此谷川づ
 きん。○邪淫谷と出る。極悪
 道より。往昔ハ七田五
 跡の。飛をの定ありしが。
 今ハはたふらふべ。○

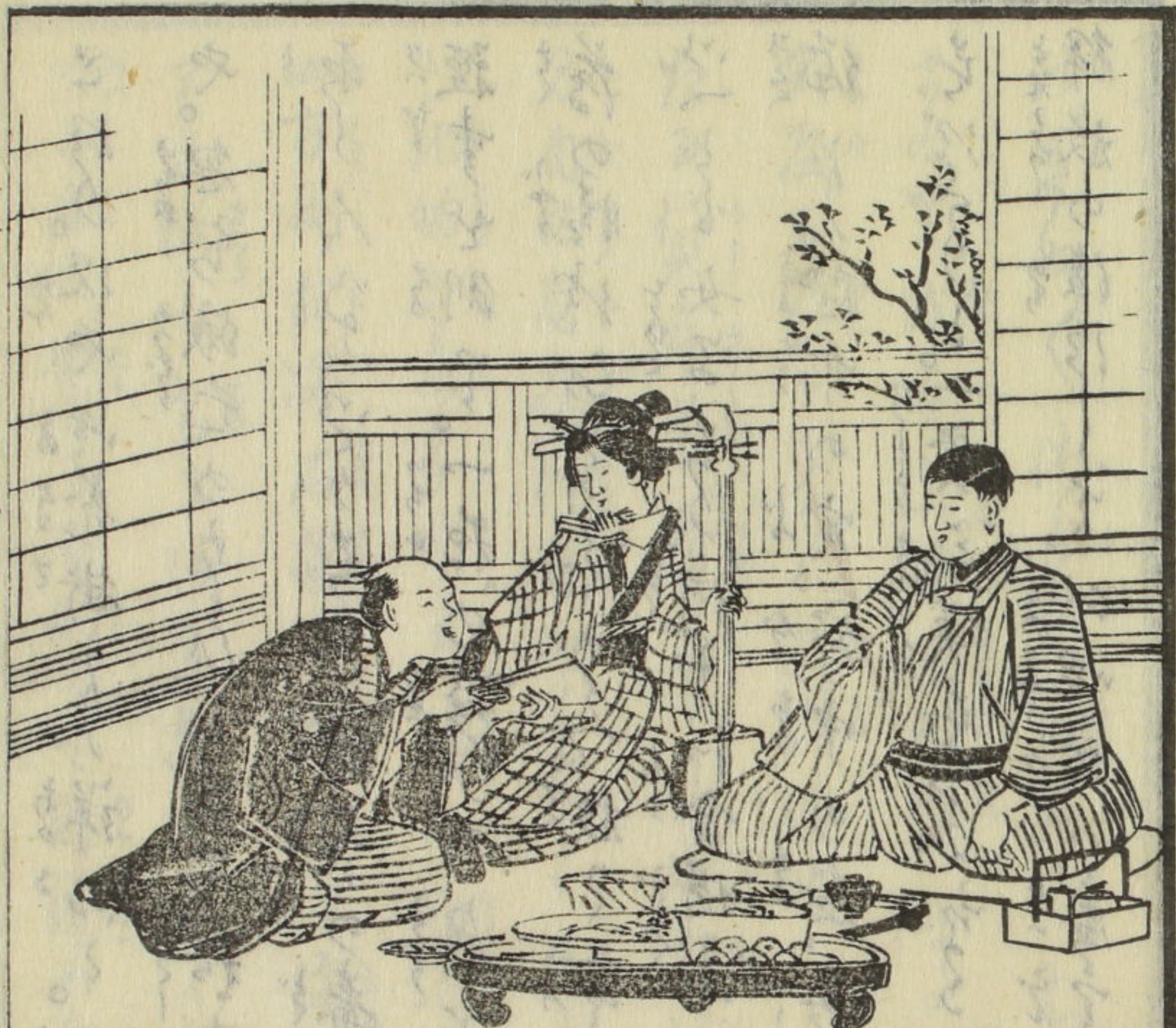


比の川。この橋よりとて、
 中。はたふらふ。知色易い
 ○此道連く還木○まひ
 木○貫ひ木○首ッひ木
 等。難木多く。一難
 所あり。○不夜城。一名傾
 城とも。又黄金城ともいふ。
 是黄金の光り。今盛
 なる。此の名なるなり。





〇此城内婦人のみりて
 女漢の姿にふるせり。稀に
 い男子も何りとてさうや。
 皆奴僕にこそ人侮みそ
 あらう。畜るあま。古く
 草より一葉さかえり
 〇瑠妓の姿と鶺鴒
 の四角。あ色ばえ十日り
 月が知る。唱あゝあま。

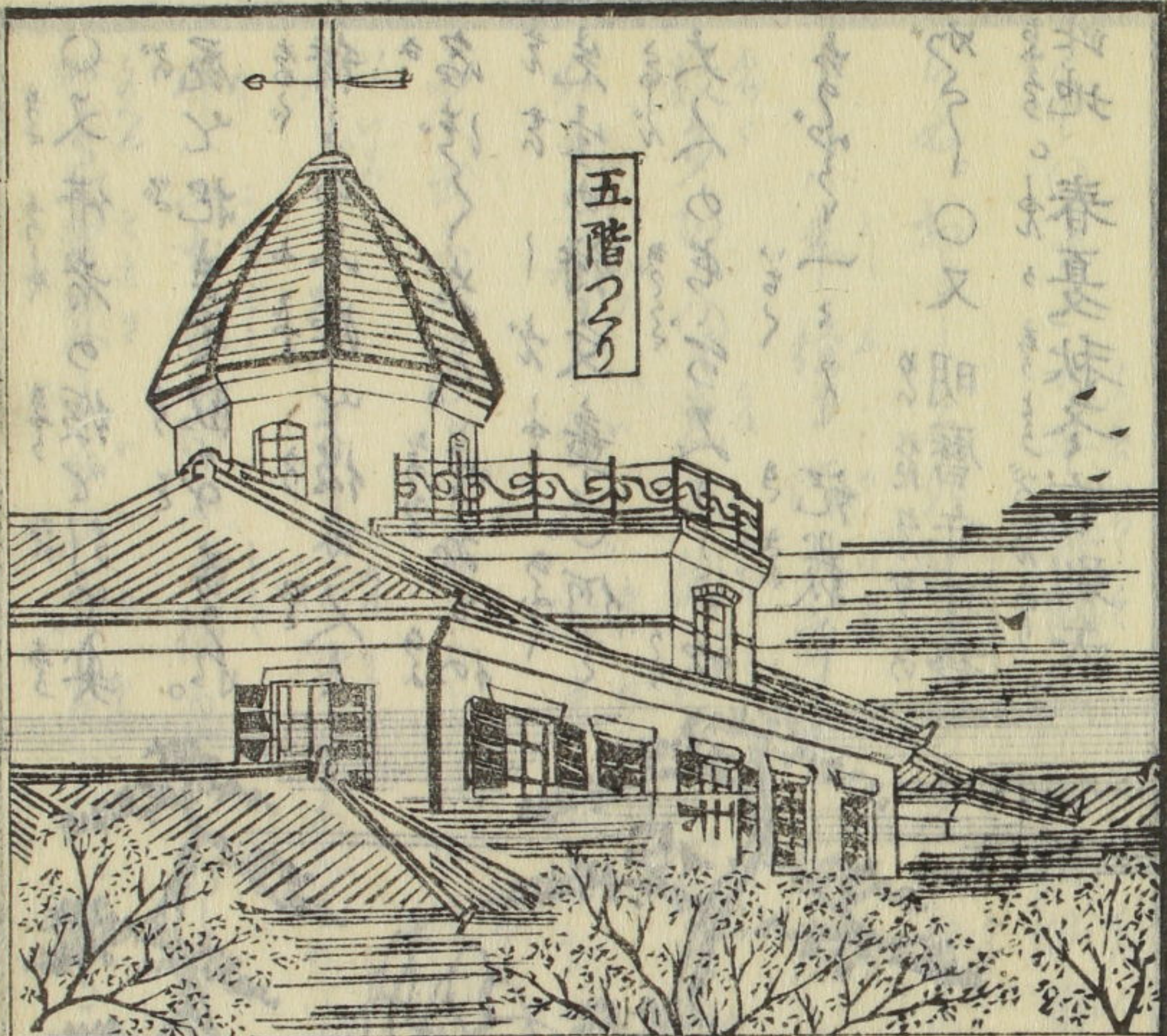


又これと評どく。〇
 是を傾城のりほや
 とき浅う。さう。さう
 文句のあま。ひく
 数多の客こやみ。あまの
 情はう。さう。さう
 人をさく。あま。さう
 〇敵木術の仁とさう。
 十子八九の迷ひ形どく

と形り。況や此花街より詳めく。諸君魂獲り賢き人と
や。忽ち滅亡のやとある。私に爲り不忠不孝の女を
取らん。そのむろい強気の毒ふ事あれば。只此
程を例に。一粒の粒は乃其をあらぐを免。程なく葉
落の情状はさるるのふ。散る寧ろ死なへといふべ。娼妓と
いふも女子あり。何ぞ和合娼女の道より連れさるんや。
偏り金中の実。金中の虚。異子孫子が去法の御にも
さるる。一愛之嘆をさるる哉と書る。今
とて。解放の後。いかに。此娼女ハ虚言と形り。明日有る有明

法。まねぐはきとて、つぎ別路も。ちよろと百つとて、せんさうど佛州寺
あり。或は上野隅田川。中々南國の川家也。むづか
なやし難くも然るに、五階造作りの西洋風なり。改より
たる貸座敷也。傍より出歩けり。新築なる見ゆ。是
れ自由自在。往昔の如く。其の境内に立籠り。方籍印
と比的さまなり。ゆるぎ。遙にお連せしことなり。○又此城の
四方め。古碑石甚多。○深山木の枝を梢とて、之が
里き様なり。むづかしきなり。○入相の鐘あり。りり
己が身の。常々ともあらず。尚迷ふれば。わづかの和歌。○おそ

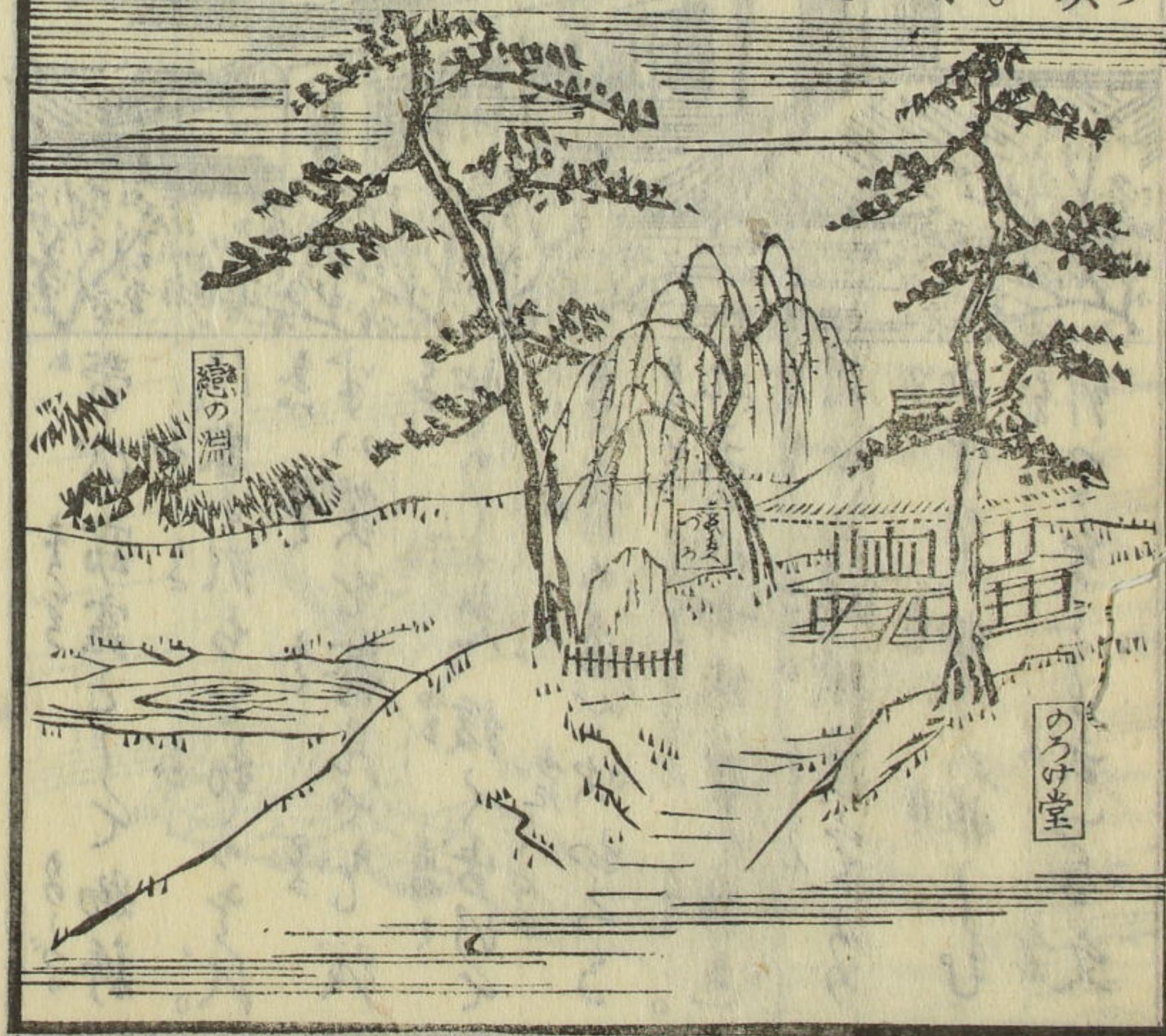
加茂の何ぐの。息も
 潘安仁が芳妹にかり。と
 契りと三列史が妻妾
 み結ぶりの語のやう
 佐伯は角が。京町の満通
 ひろり楊屋の傾城の
 賢あるはみ柳のあど
 のう。又難学者の嬌
 婉うへ傾城の以後



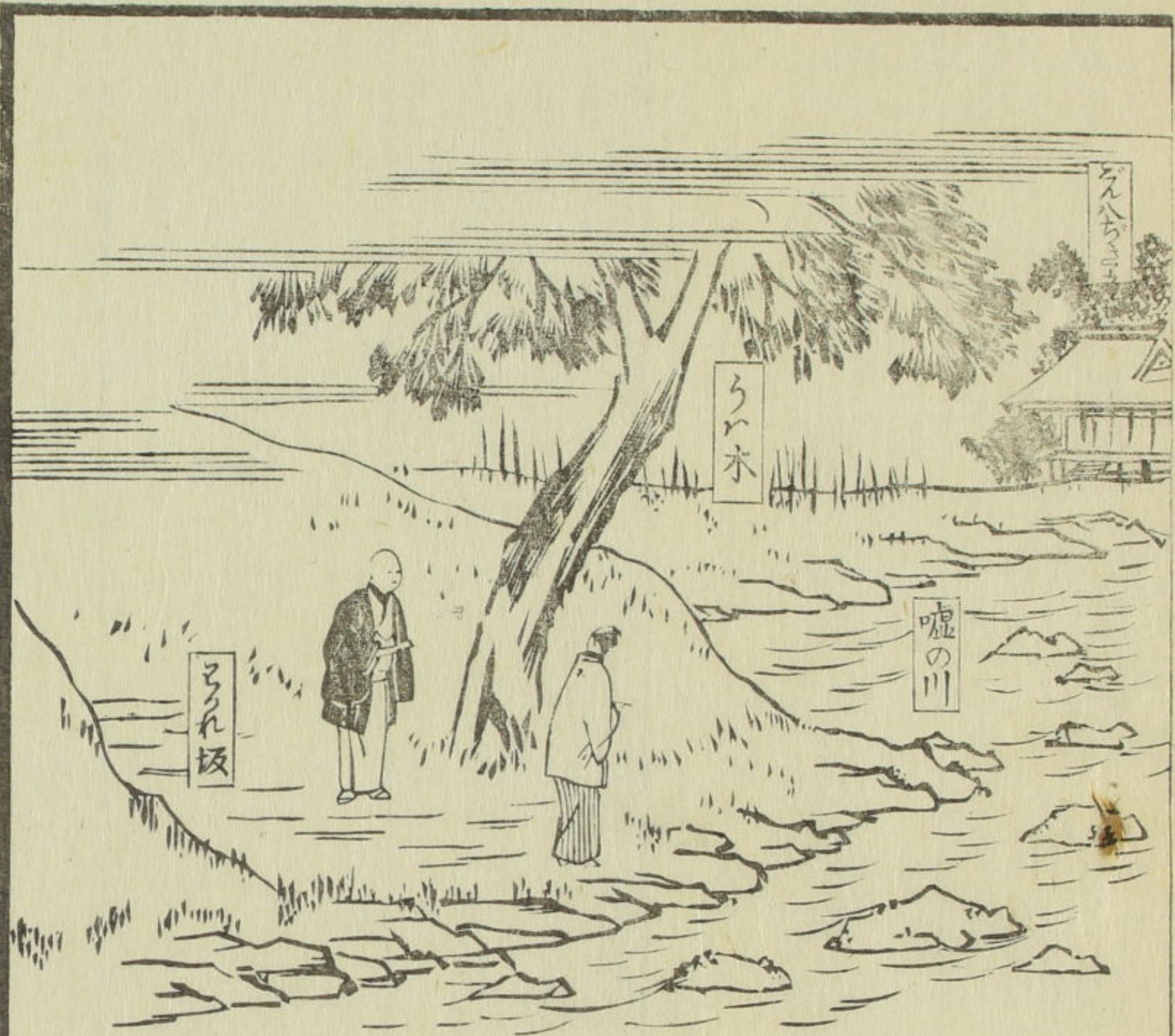
五階つり

帯び。窈窕とて物静
 に。客と形を動のやうに。
 半ハ笑を蒼んやむ城
 恥のゝ光。緩く歩け
 葉麝の香を吹かす
 九天の仙女綵雲を離色。
 月中の嫦娥霞をより
 出づる。響く。怪しむ
 針をさす。云々。文

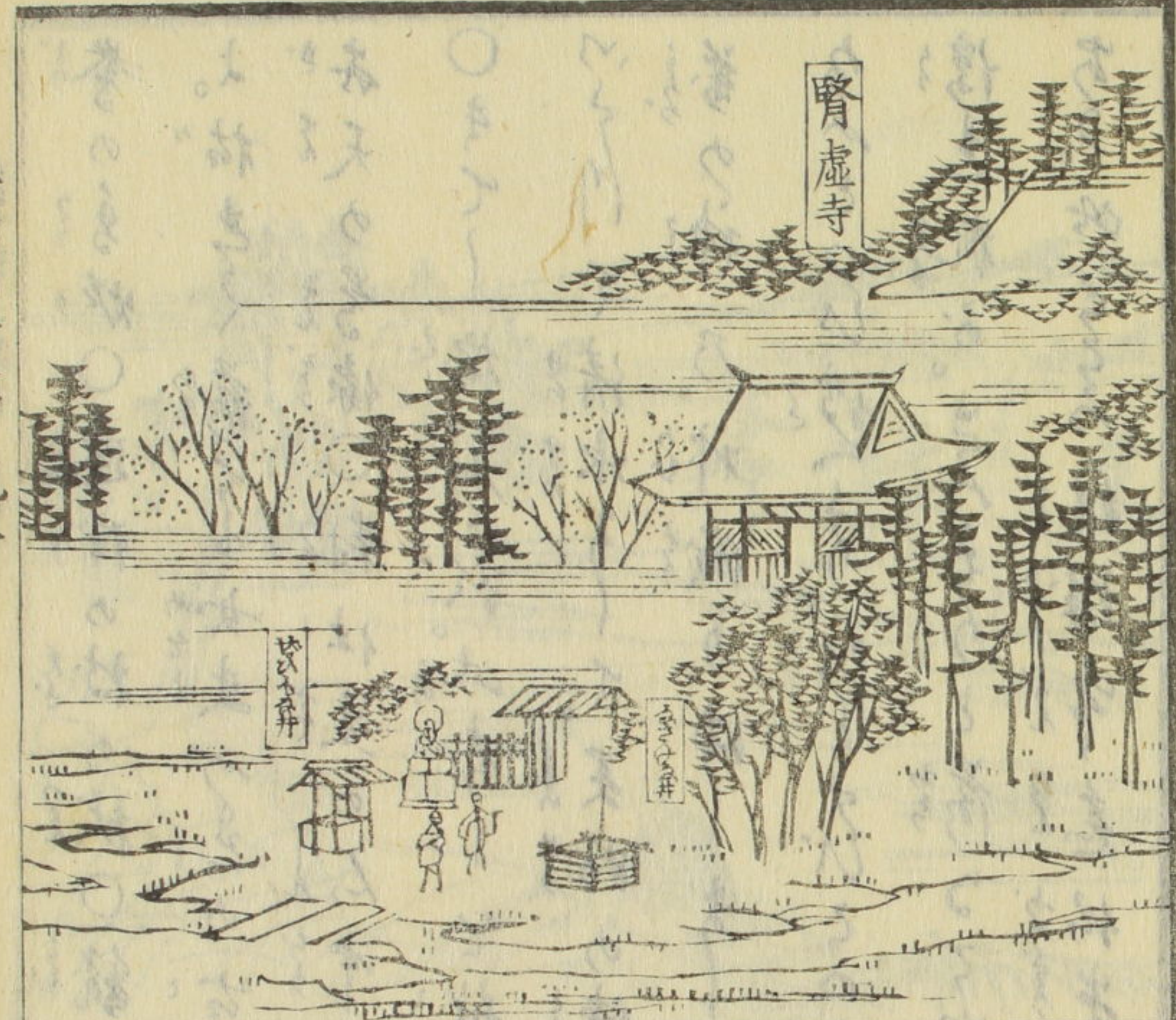
○又俳者の經を引て。真
 屍を抱きて臥するあり。其
 種々の不潔を倣ふ人と
 名づくかど。其おもひ
 先生の詩文章。○何く
 大人の書ふみづから歌
 ちやうど一と一 記載し
 かう。○又 明曆年中移
 此地 春夏秋冬有別天。



る。○すこ 太平樂國。悠海之仙都。さき 賛ぜしよりむる分
 らぬ。おもし 仙境あり。○虚の川。○流るの水。○水。○水。○水。
 あり。ハ年経る所。太常ありて。風の色や。ぬるる。その
 数多あり。○意乃淵。此ふくを満るや。是踏む。首ッ
 ちやうど有と云ふ。近年此ふくを満る事。と。あつとちる
 中云ふ。○のりけあり。びの杜。○らんち樹。○無き。石。此
 石。玉。大いあり。何費目ある。のりけ。○のりけ。あり。其
 守ハ。二。中。坊。あり。ふ。お。俗。鼻。ッ。ち。ち。一。坊。と。呼。ぶ。○。祥。狂。板。
 此。是。一。男。本。と。云。ふ。樹。多。し。あ。く。ち。所。奴。多。し。と。云。ふ。祥。

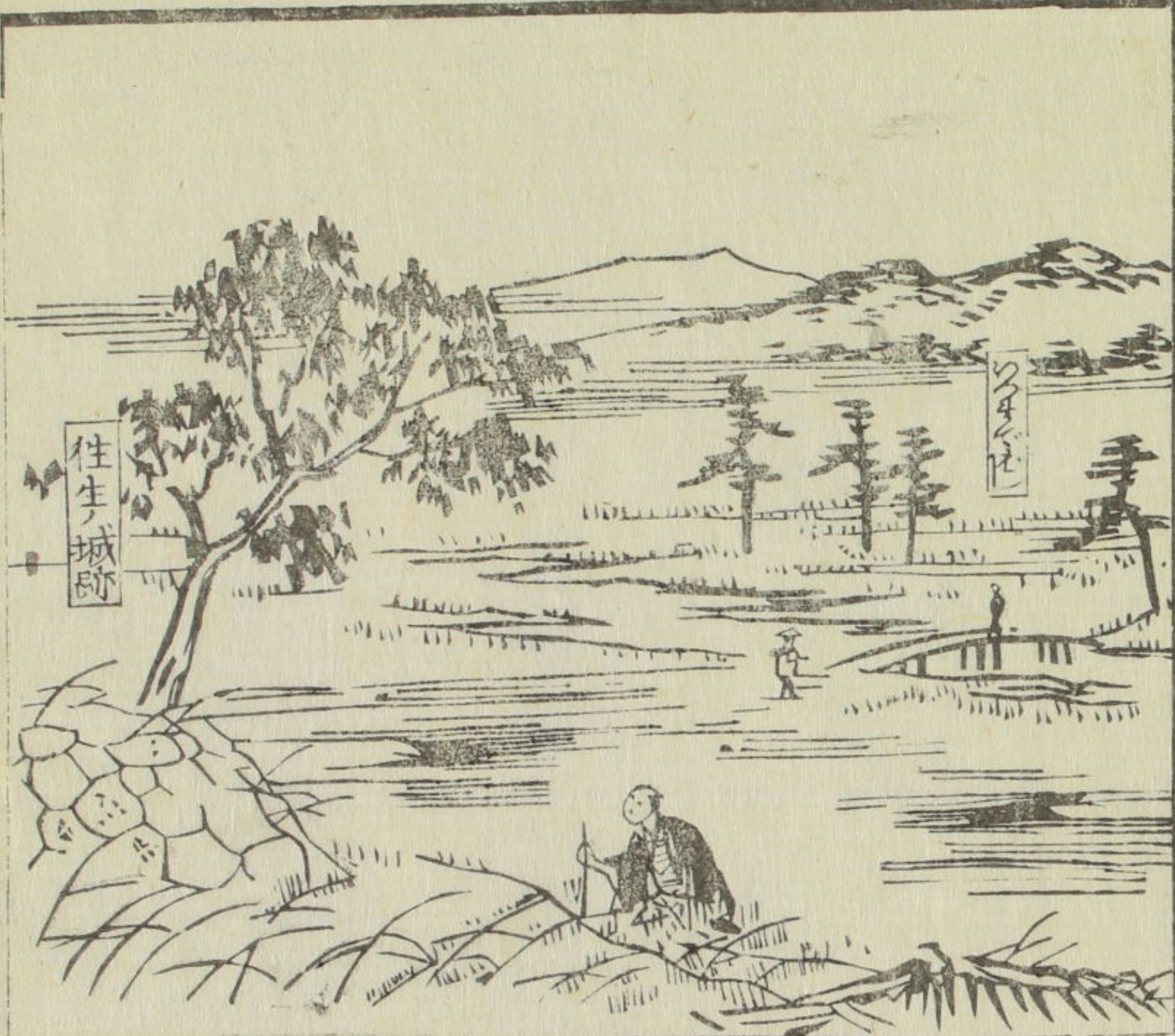


犯るあり。内。今。おせ
 る。このハ。長。お。権
 八。地。蔵。あり。武。蔵。の。玉
 熊。谷。つ。つ。つ。つ。同。名。乃
 北。蔵。菩。薩。あり。○。北。蔵
 河。の。川。い。う。その。川。の。水
 原。に。て。末。ハ。○。身。傍。子
 川。一。端。○。后。悔。山。腎。老。寺
 境内。り。○。是。非。も。る。井



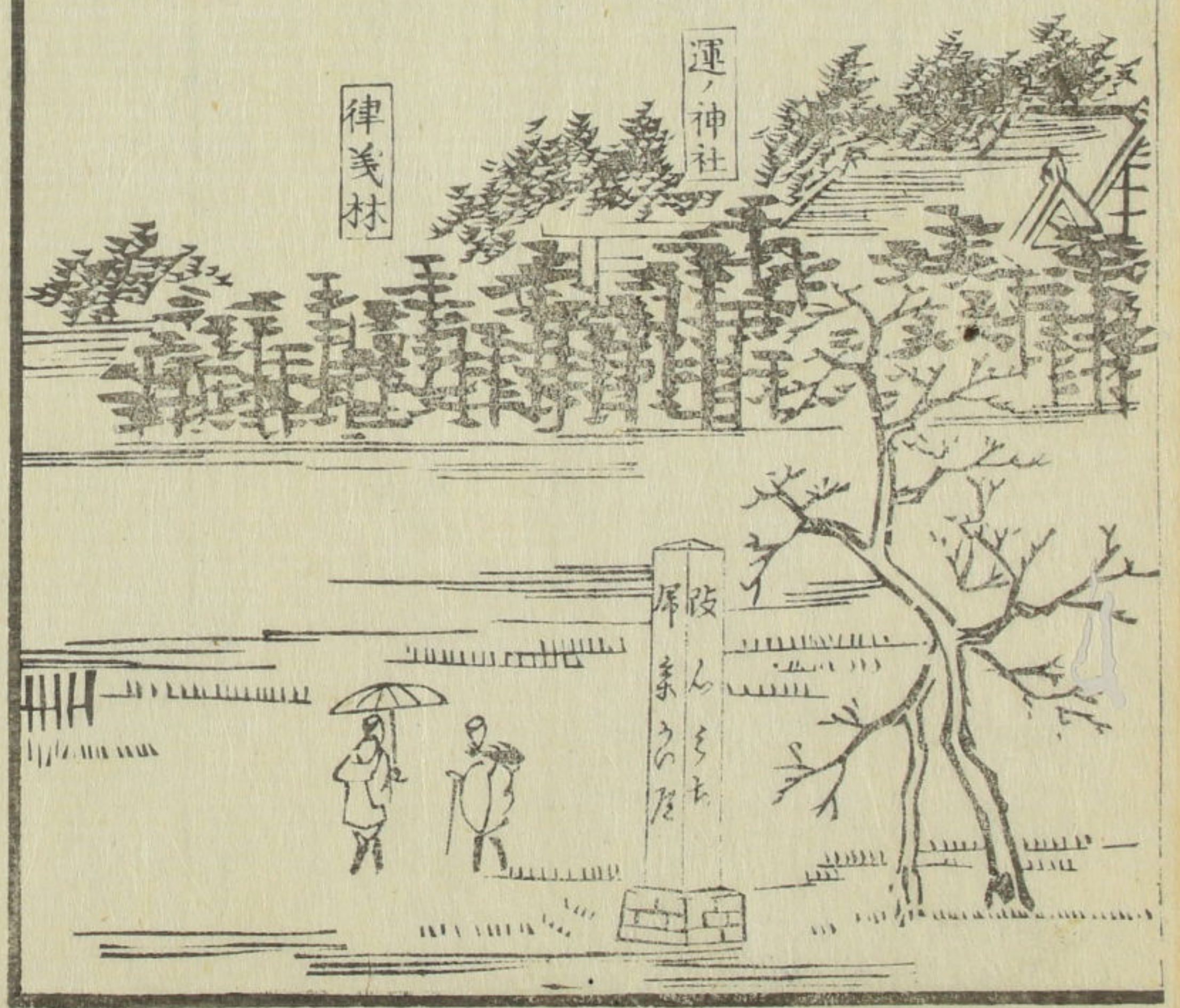
○。懐。か。井。と。い。ふ。る。あ。ろ
 の。井。戸。あり。此。井。戸。の
 水。減。り。て。ハ。今。旦。夕。り
 お。り。む。お。や。ハ。客。易。ハ
 汲。干。は。危。う。い。ハ。○。當
 寺。に。經。の。あり。あり。や。う
 南。寺。の。什。物。美。宝。ハ。益
 の。もの。も。ろ。と。集。え。花
 せ。り。○。双。い。も。る。也。ね。紀。

譽の多^うゆ^う○連^{れん}理^りの枝^えの状^{じやう}○貌^{ぼう}は松^{しょう}葉^えの如^{ごと}くや^うり
 よ。枯^かま^まる^る落^{おち}て^ても女^め主^{しやう}つ^つの古^こ金^{きん}欄^{らん}○細^{さい}や^やか^かと^と其^{その}歌^{うた}
 赤^せ天^{てん}の尊^{そん}像^{ざう}○對^{たい}仕^し立^りの^の中^{ちゆう}小^{せう}袖^{そで}着^きたり○此^{この}寺^{てら}より
 ○まて^て一^{いつ}橋^{はし}か^か敷^{しき}此^{この}方^{はう}を越^こつ^つ○碓^{すい}氷^{へい}の井^いの水^{みづ}あり
 い^いり^りて清^{せい}水^{すい}あり^て。美^み妙^{めう}の徳^{とく}ある水^{みづ}なり。既^{すで}昔^{むかし}八^{はち}百^{ひやく}
 夢^{ゆめ}の神^{かみ}乃^の神^{かみ}織^{おり}り^り傳^{でん}ま^まる^る。此^{この}神^{かみ}水^{みづ}を涌^わ出^でし
 か^かみと^とい^いひ傳^{でん}へ^へり。い^いと^とい^いび^びの^の水^{みづ}を飲^{のみ}と^とい^いひ。こ^この^の水^{みづ}は
 傳^{でん}は^は机^きが。さ^さら^らと^とり^りと^と落^{おち}る^るや^やり^り○此^{この}城^{じやう}の^の城^{じやう}は
 あり。此^{この}と^とら^らに^に住^すみ^み家^けを^を志^しし^し半^{はん}が^がた^たる^る。さ^さや^やの^のま^まあり^て。

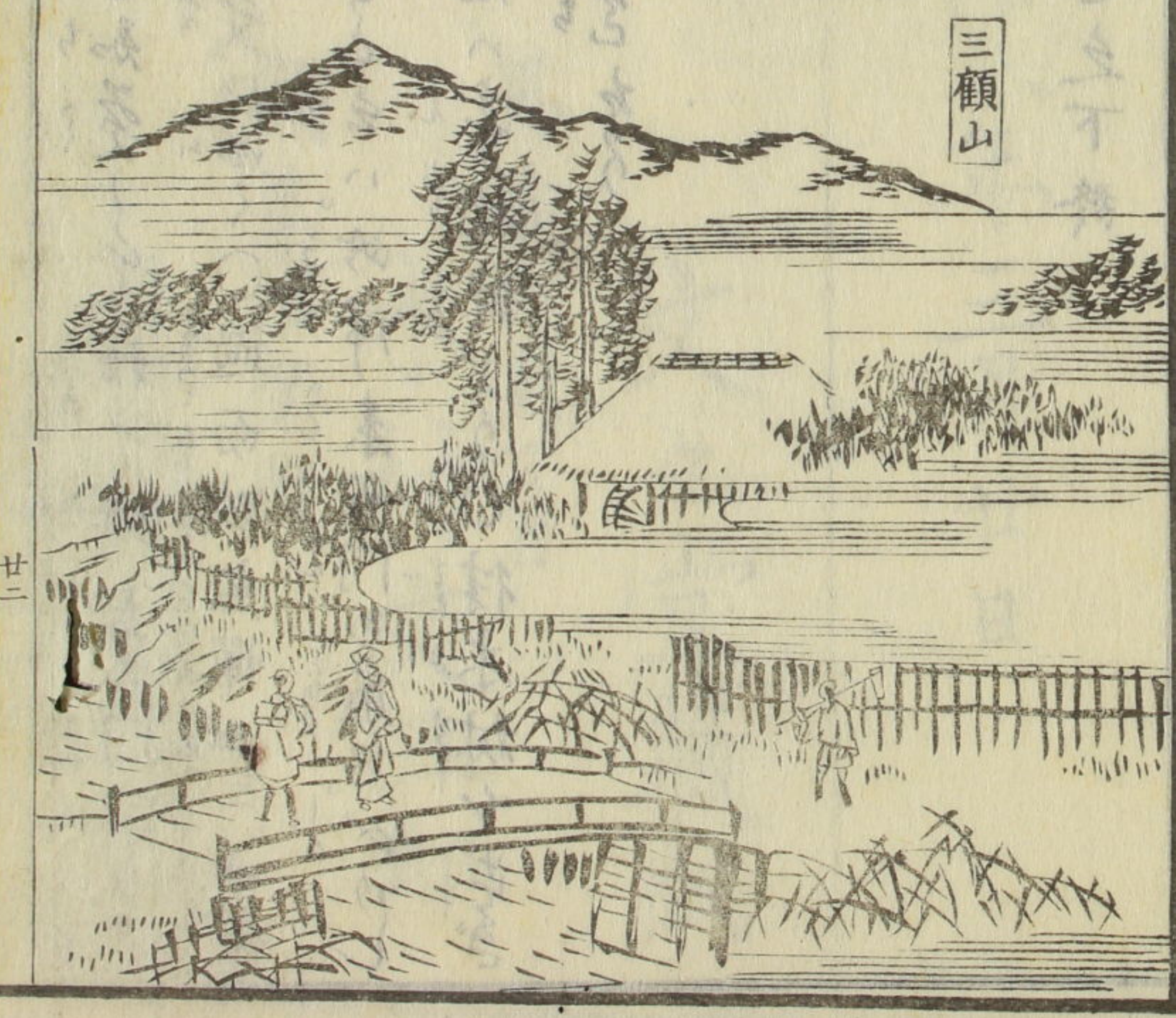


う^うの^の怨^{うら}み^みに^にる^る浪^{なみ}あり
 ○此^{この}城^{じやう}は^は烈^{れつ}に^にて^て古^こに^に戦^{せん}
 城^{じやう}あり^と。古^こ老^{らう}の^の傳^{でん}へ^へり
 適^{てき}て^て人^{ひと}を^を昔^{むかし}の^の大^{だい}厦^{しゃ}を^を
 樓^{ろう}好^{こう}は^はあり^と。此^{この}城^{じやう}の^の水^{みづ}
 り^り熾^し矣^いと^とい^いふ^ふ。さ^さら^らと^とり^り
 ま^まる^るり^り拘^{こう}苦^くし^し。執^{しやく}是^ぜ乃^の
 焉^ん。乃^のち^ちま^まる^る首^{くび}を^を落^{おち}す^す。
 霸^はと^とあり^と。愛^{あい}情^{じやう}の^の夢^{ゆめ}は^は

つまひ 絆とある。荊棘
 ち道とふ。い。しち
 樹の枝は葉を造りし
 苔は礎を粉雪。草は一叢
 のあわりと跡を。雪五更
 乃粉を照し。樹は半幹
 の雪と残る。白雪夏性
 に。渾ちま。雪。洗
 ひ。風り。破ら。織く



たる流水。青塚と遠り
 て。ふ。楊。ひとり。肥。う。禁。山
 冬んととれ。バ。涙。生。憎。に
 袖を濡し。兄。す。歎。を。れ
 ども。終。く。人。を。ほ。お。茲。よ
 以。り。て。金。の。子。ハ。市。に
 死。を。か。け。金。を。云。味。あ。べ。ー
 〇。三。顧。山。當。山。より。これ
 中。で。過。来。り。一。御。た。の。幸



苦く皆自ら為せしと知覺し。初て歸來の門に當り。此
 新より傳示ありて。文に曰く。○過而改無憚。○世に
 にあたり人ハ。人として云い。此歸來の門の扉乃。べし
 と云ふ事なり。○此先の事。抱持より。○傳木林をさぎ
 ○運の神乃。仕へ糸緒をさぎなり。

發明道中記初編卷之下終

官許明治八年三月廿日

東京 文々堂藏版

發兌 馬喰町貳丁目 木村文三郎

書肆 淺草須賀町 山本莊兵衛

